

## 自然を見せる観光から、 自然を守る観光へ

### ① 守る、引き継ぐ

白く輝く砂浜と透き通る海、花々が咲き誇る天上山、豊かな湧き水などがきらめく星空に覆われた神津島の豊かな自然と、そこで育まれた**歴史・文化**を守り、次世代に引き継ぐためにエコツーリズムを推進していきます。



### ② 伝える、広める

島民と来島者、双方の視点で地域の魅力を再発見、エコツーリズムの取組を通じて、**島民**の郷土愛を育み、環境保全に対する理解を深め、これを**来島者**へも広めていくエコツーリズムを推進していきます。



### ③ 自立・持続し、還元する

神津島ならではの資源・魅力・人材など「地域にあるもの」を保全しつつ効果的に活用する持続的なエコツーリズムを推進し、**環境保全**と島民の**豊かな暮らし**へのと還元し続けていきます。



\*エコツーリズムとは、地域固有の自然や歴史文化を活かし、魅力を学び伝え引き継ぎ、保全や活性化を目指し貢献する地域独自の観光形態です。

#### つながる自然を体験するエコツアー

「エコ」とは生態学・自然環境を意味するエコロジー (ecology) の略語。エコツアーは、独自の自然や生態系の不思議、素晴らしさ、育まれた暮らしや文化に触れ、学びや感動を生む旅です。



## 神津島エコツーリズムハンドブック

神津島エコツーリズム推進協議会

発行 2024年3月

2023年9月1日  
神津島  
エコツーリズム  
推進全体  
構想認定



神津島エコツーリズム推進協議会

# 神津島って どんなところ？

神津島は、伊豆諸島のほぼ中央に位置し、花の百名山や新日本百名山にうたわれた天上山<sup>てんじょうさん</sup>とそこから生み出される豊富な湧き水、紺碧の海、白い砂浜が広がる自然に恵まれた、神話と歴史、特有の伝統文化が息づく素晴らしい島です。

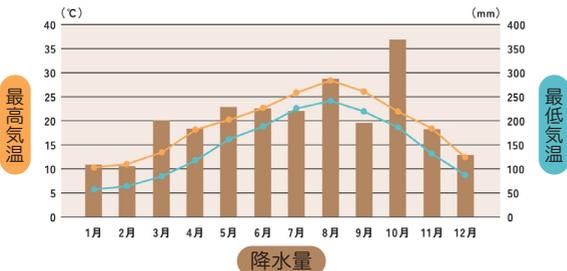
雄大な自然環境と、漁師文化などが色濃く残り、古くから受け継がれてきた人々の営みも神津島の魅力です。



面積 : 約 18.6km<sup>2</sup>  
島の周囲: 約 22km

人口 : 1,809人、925世帯 (2023年3月1日時点/村役場調べ)

気候 : 東京に比べ、冬はやや暖かく、夏は涼しい気候で過ごしやすい気候です。



## 基本情報

### 産業別就業者割合

神津島の主な産業は漁業、農業、観光です。漁師と建設業・観光業などを兼業をしている人もいます。



出典: 第2次神津島村人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略 (2015年)

### 神津島は白く輝く島

伊豆諸島では噴火した溶岩の違いによって、島の形や景観、砂浜の色などが異なります。流紋岩質の神津島は石英(ガラス質)を多く含み、白っぽいのが特徴です。



多幸湾と天上山

### 神津島にある2つの無人島

恩馳島は、日本でもトップ5に入るほど有名な黒曜石の産地です。祇苗島は、独自の生態系により大きなシマヘビがいることからヘビ島とも言われています。また、カムリウミスズメの産卵地としても知られています。



天上山裏砂漠展望地からの祇苗島

# 暮らし

神津島は伊豆諸島一の水揚げ量を誇る漁業の島です。漁師も多く、漁にまつわる神社や神事が多く残されています。



## 神事

ものいみなのみこと

毎年8月2日に物忌奈命神社で行われる「かつお釣り神事」は、その昔、鯉節を年貢として収めていた時代からの、漁業の安全と豊漁を神に感謝し奉納する行事で、境内を漁場にみたく、青竹で作った船に若い衆が乗り込み豪快に駆け回り、観衆をカツオにみたくて餌ならぬ菓子やおひねりを撒き、水揚げ入札や女装した若者が荷を運ぶ寸劇も披露されます。

**食文化** 環境に恵まれない神津島では、昔はさつま芋を主食としていました。

## 神津島と言えば「いも」

①あぶらき：茹でたさつま芋と片栗粉と小麦粉をこね合わせ、油で揚げたもので、冷めても美味しく日常的に食べられます。

②切り干し餅：干したさつま芋の粉ともち米を蒸し、餅をつくる手順でつくる独自の餅で、焼いたり揚げたりして祝い事で食べられます。

## しょうゆめし（神津島の郷土料理）

もち米を少し加えたお米を岩のりと醤油、油を加えて炊き上げた代表的な郷土料理です。各家庭のおふくろの味で、日常的にもお祝いときなどにも食べられています。



しょうゆめし

## 湧水

神津島には、火山活動と地質的な特徴からできた地下水脈が、島には珍しく豊富で美味しい湧水を各所にもたらしています。貴重な資源である地下水脈は、生活の源である水道水、島特産の焼酎や地ビールの醸造にも使われ、生活と自然環境に豊かな恩恵を与えています。



多幸湧水（東京の名湧水 57 選）



水配り像（水配り神話）

## 方言

神津島には九州経由からの南方系と本土経由からの北方系の人が住みついたと言われており、島独特の方言（神津弁）があります。

## しまことば

- ・にし=あなた
- ・おい=俺、私
- ・～にい=兄もしくは目上の男性
- ・～ねえ=姉もしくは目上の女性
- ・ぎゃーば=カンムリウミスズメ
- ・せつない=疲れた、苦しい
- ・あいべよ=一緒に来なよ
- ・～だしかい=～だから
- ・しゃば=沢山

## 島内でのマナー

1

島の自然環境を守るため、ゴミのポイ捨てはやめましょう

2

ゴミの分別、減量にご協力をお願いします

3

夜間、集落内を歩く際は大声で騒がないようにしましょう



かつお釣り神事



ものいみなのみこと 物忌奈命神社の例大祭

栄養分豊富な湧き水が流れる沿岸部には海藻類が生息しています。そして、流紋岩に含まれる無色透明の鉱物「石英」を多く含む白く輝く砂浜が広がり、砂の粗さと黒潮が透明度の高い水中環境をつくっています。



## 海エリア

伊豆諸島の最も西に位置する神津島の海は透明度が高く、深場からのプランクトンが上昇し回遊魚が集まる豊かな漁場です。



### バリエーション豊富な地形

神津島には、長い年月をかけて波などで浸食された海の景色があります。島の北部に位置する赤崎遊歩道周辺や南部の断崖にある千両池など自然の入江、そして「ぶっとおし岩」や「鏡穴」など海岸にできた洞窟（海蝕洞）があります。また、海中にも洞窟や縦穴（チムニー）など、神津島独自の壮大な景色が広がっています。

### 持続可能な海の資源管理

神津島の海は、カンパチ、イサキ、シマアジ、アカイカなど多様な魚が生息する漁場です。この豊かな海の資源を枯渇させることなく活用していくため、漁業関係者で自主ルールを設け持続可能な資源管理の取組を行っています。



キンメダイ漁

### 海水温上昇

地球温暖化などの海水温の上昇により、磯焼けが拡大し、テングサなどの海藻類が減少しています。その結果、海藻などを餌として生きる貝類の減少に伴い、イセエビなども急激に減少し、海の生態系に大きな影響を及ぼしています。一方で、水温上昇により、南の方に暖帯に生息している南方系の魚が増え、赤崎遊歩道などの海中にはサンゴが定着しています。



危険な生き物：  
カツオノエボシ  
（くらげ）



定着したサンゴ

### 海エリアでのマナー

- 1 サンゴなどに触れないようにしましょう
- 2 海の生態系を守るため、餌付けは控えましょう
- 3 海の環境にやさしい日焼け止めの使用をお願いします



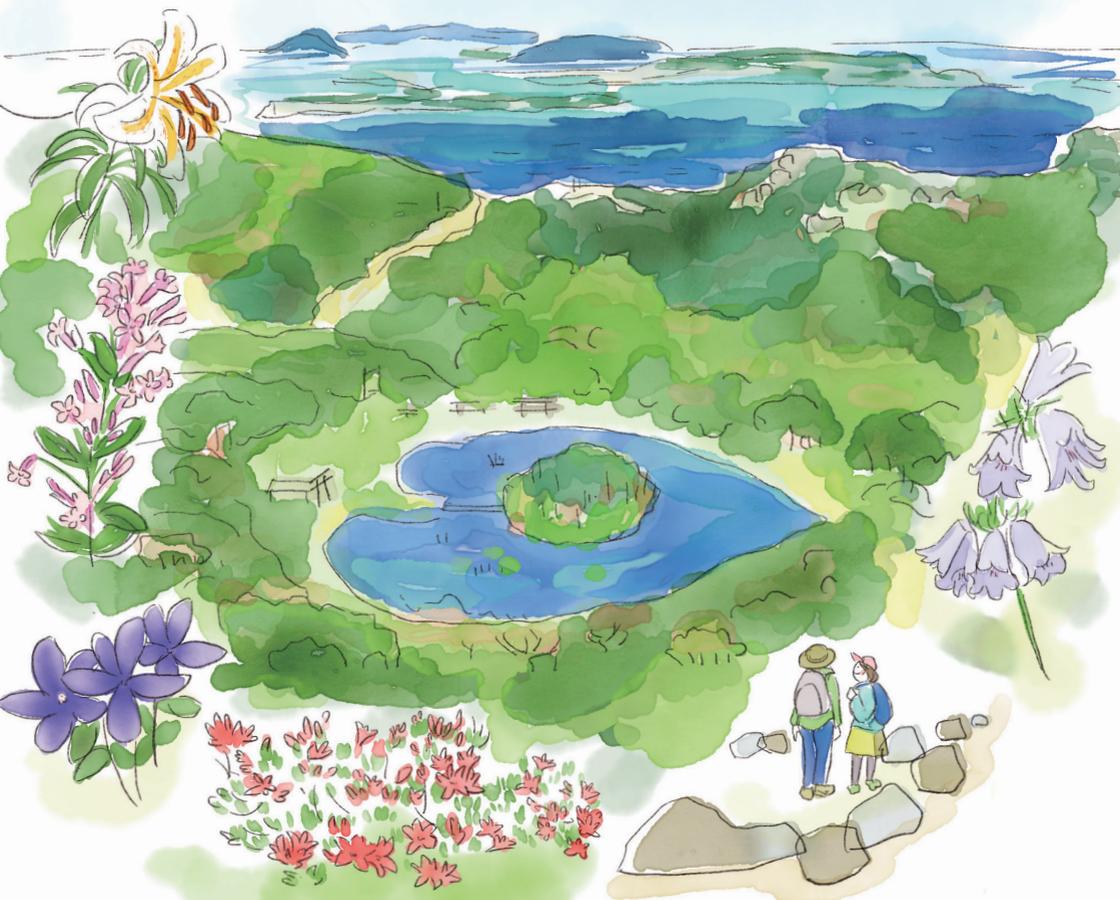
海中の縦穴（チムニー）



前浜海岸の白砂

# 陸エリア

神津島は大陸と地続きになったことがないため、シカやイノシシなど哺乳類（コウモリ類を除く）や両生類が生息せず、独特な生態系が保たれています。



西暦 838 年（平安時代）の噴火で誕生した天上山は、海浜植物から山地性植物までの珍しい植生が広がっています。

## 天上山

天上山は神津島の最高峰（標高 572 メートル）で、流紋岩質の台形状をした溶岩ドームに分類される火山です。その姿は「洋上のアルプス」や「黒潮に浮かぶ展望台」とも称され、山頂には伊豆諸島固有種の花々などが咲き誇ることから「花の百名山」や、山頂からの眺望の素晴らしさから「新東京百景」にも選定されています。

## 黒曜石

黒曜石は流紋岩質のマグマが急冷して固まった天然のガラスです。旧石器時代から縄文時代にかけて矢じりやナイフに使われました。本土の遺跡から神津島産の黒曜石が出土していることから、3万8千年前に神津島への往復航海（世界最古）の証になっております。



砂糠崎の黒曜石地層

## 外来種問題

神津島には、ノネコ（野良猫）やネズミ類、セイタカアワダチソウ（植物）、リュウキュウツヤハナムグリ、サツマゴブリ（昆虫）などの外来種が確認されており対策が必要です。対策としては「入れない」「放さない（逃がさない）」「拡げない」が重要です。



外来種ノネコ



外来種

リュウキュウツヤハナムグリ

## 陸エリアでのマナー

- 1 植生を守るため、登山道・遊歩道を歩きましょう
- 2 生態系を守るため、外来種対策に協力をお願いします
- 3 島内の動植物を、島外に持ち出さないようにしましょう



天上山ツアー（黒島登山道9号目付近）



希少種の保護活動

# 星空

神津島村では美しい星空を観られる環境を次の世代に残すために、夜空を守る取り組みを進め、2020年12月に国内で2番目の「星空保護区®\*」に認定されました。

\*星空保護区は単に「星がきれいに見える場所」ではなく、光害から夜を守るために夜空の暗さを定期的に測定したり、光害や星空に対する理解を深める様々な活動などを行っています。



## 水平線に沈む夕方の太陽

神津島の集落は西に面しており、水平線に沈む夕陽を気軽に眺められます。なかでも11月中旬の前浜海岸から遠方の恩馳島に夕陽が重なる景色は圧巻です。また、日没後には海に沈みゆく月や星座の天体ショーを静かに楽しむことができます。



恩馳島の夕日

## 天然のプラネタリウム

神津島は真っ暗な海に囲まれ、集落の明かりの影響も少ないので、島から見る星空は国内屈指の美しさを誇ります。気象条件などが揃えば6等星の暗さの星や、都市部ではなかなか見ることができない1等星のカノープスも観察できます。

## 光害問題

光害とは、照明の設置方法や配光が不適切で、景観や周辺環境への配慮が不十分なために起きる様々な影響のことです。例えば、研究や教育活動としての天体観測を妨げ、野生生物を脅かす光、エネルギーの浪費などがあります。

神津島ではオオミズナギドリなどの海鳥の一部が人工の明かりに誘引され、路上や集落内に不時着しています。一方で、光害対策として島内の不要な道路灯を撤去し、適切な屋外照明に改修したことで、ウミガメが海岸に戻り、産卵したことが確認されました。



屋外照明の改修工事（前）



屋外照明の改修工事（後）

## 星空観察でのマナー

- 1 観賞中は不要な灯りを消しましょう
- 2 レーザーポインターの使用は控えましょう
- 3 日没から日の出までは、天上山への入山を控えましょう



星空ガイド活動



人工の光に誘因されたオオミズナギドリ